

平成 25 年度第 2 回岩手県健康いわて 21 プラン推進協議会会議録

日 時：平成 25 年 11 月 21 日（木） 13：30～15：15

場 所：盛岡市勤労福祉会館

出席者：別紙名簿のとおり（委員 11 名、委員代理 4 名、事務局 8 名）

傍聴者：一般 2 名

1 開会

2 あいさつ

【根子保健福祉部長】

- ・ 国においては、「健康日本 21」の第 2 次計画が、今年度からスタートしたところであり、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」、「健康を支え、守るための社会環境の整備」等の基本的な方向に向けた取組が進められている。
- ・ 本県では、今年度、現行プランの最終評価を行うとともに、第 2 次プランの策定を進めているところである。現行の 21 プランの最終評価において、「循環器疾患」「糖尿病」の領域をはじめ、「やや遅れ」の領域が半数以上を占めていることから、県民の健康維持の推進のため、より一層取組を推進していく必要があると考えている。
- ・ 未だ多くの方が応急仮設住宅での生活を余儀なくされるなど、被災者の方々の健康づくりへの支援も、欠かすことのできない課題の一つであると認識している。
- ・ このようなことから、第 2 次プランの中間案では、基本的な方向として、本県の大きな健康課題のひとつである脳卒中対策や東日本大震災津波後の健康づくりについても盛り込み、具体的な取組を推進していきたいと考えている。

2 協議

健康いわて 21 プラン（第 2 次）の中間案について

資料 1 及び中間案により事務局から説明

【質疑応答】

(阿部委員)：岩手県保健推進委員等代表者協議会

- ・ P104 の社会全体が相互に支え合うということは非常に大切であると感じており、「お互いに助け合っている」と思う県民が 57.0%と、全国の 50.4%に比べて高くなっていることは良いことだと思う。
- ・ 健康や医療サービスに関係したボランティア活動をしている割合が、全国と同様の水準にあるというのは非常に良いことだと思う。
- ・ 地域住民が主体的に清掃活動や自治会活動、社会貢献活動などの取組を行っていくことは大変すばらしいことであり、それぞれがバラバラに活動するのではなくて、皆で協力しながら取り組むようにすることが必要である。

(和野内委員代理)：岩手労働局

- ・ 岩手労働局では、第 12 次岩手労働災害防止計画を策定し、今年から 5 か年計画で取り組むこととしている。また、成長戦略は 10 か年計画で取り組むものになっており、これらをリンクさせながら、メンタルヘルス対策等に取り組んでいる。
- ・ メンタルヘルス対策については、平成 34 年までに、全ての事業場がメンタルヘルスに対して何らかの措置を受けられる体制をとっているということを最終目標としている。

- ・ 第12次労働災害防止計画では、岩手県としては、50人以上の事業場のうち、8割以上の事業場がメンタルヘルス対策について、何らかの措置を受けられる体制を構築していくということで取り組んでいるところである。
- ・ 受動喫煙に関しては、34年までに受動喫煙のない職場を100%にしていきたいということで取り組んでいるが、受動喫煙防止対策を行っている事業場の現状については、残念ながら私どもでは把握していない。受動喫煙防止を推進するため、喫煙室の設置については、中小事業場に対して、かかった経費の2分の1、最高限度200万円までということで補助をし、受動喫煙防止・分煙対策を推進している。

(佐々木委員代理)：岩手県予防医学協会

- ・ 検診というのは検診を受けるだけではなく、その後のフォローという大事な役割がある。飲酒、喫煙、特に次世代の健康というところで感じているのは、大人になってからの改善では、非常に時間もコストもかかり、なかなか効果が出ないため、やはり小児期からの関わりが求められているのではと感じている。
- ・ 次世代の健康ということで、肥満の解消という観点ではあるが、朝食を親と一緒に食べるとか、親と一緒に運動を楽しむとか、そのような基盤づくりを進めていけば良いのではないかと思う。そういった子供というのは、生きがいや夢を持つ率が高いということも聞いており、飲酒・ドラッグ・喫煙に手を染める率が非常に低くなるとも言われている。子どもや若い世代をターゲットとした関わりも大事であると思っている。
- ・ 健康づくりサポーターの位置づけがあるが、健康寿命を延ばすということから考えると、生きがいを持っていきいきと一生を終えていけるというのが目標となり、それが結果的に脳卒中等のリスクを減らすことにもつながると思うので、サポーターだけではなく一人一人が誰かのためになっているという実感が持てるような活動の場を広げていければ良いと思う。
- ・ 被災地の健康相談で仮設住宅にお邪魔しているが、被災前は家に閉じこもりだったという方が、仮設住宅に入って自治会の仕事をするようになり、足腰も丈夫になり、頭も前より冴えてきて、生きていて楽しいという実感があると話される方が時々いる。誰かのためになっているという実感を持てるような関わりを、健康づくりサポーターを通して浸透させていければ良いと思う。

(及川委員)：岩手県地域婦人団体協議会

- ・ 11月14日、15日に結核予防に関する研修会に出席したが、未だに全国で新しい結核患者が2万人いること、結核で亡くなる方が2千人おり、多分交通事故で亡くなる方より多いとのことであった。70歳を過ぎてから結核になることもよくあり、あまり特徴的な症状がないため発見が遅れることがあるので、私ども家庭にいる者はお年寄りの健康に気配り、目配りをしていかなければならないと思っている。
- ・ 3.11の東日本大震災津波後、津波が絶対来ないようなところに仮設住宅が建っており、車を運転しないお年寄りや、買い物もなかなかできないようなところに住んでおり、どのようにして買い物をしているのか心配になる。移動スーパー等時々回るようであるが、値段が少し高いようである。お年寄りはスーパーに買い物に出くると、カップラーメンを10個も買い、カップラーメンを一つ食べて終わりという生活をしている者もいる。それを聞くと、せっかく助かった命なのだから、もう少し元気で頑張っていたらいいと思う。
- ・ 私たち団体でも、津波で家を流された人も流されなかった人も、最初はお互い助かって良かったということであったが、最近では関係が少しくしゃくしてきているところもあるが、家族の健康を考えて、命と暮らしと故郷を守ろうという活動のスローガンの下、家族の健康を考えてみんなで頑張っていきたいと思っている。

(太田代委員)：岩手県栄養士会

- ・ 岩手県栄養士会でも脳卒中死亡率ワースト1からの脱却を掲げて、減塩対策等の活動をしているところである。
- ・ 具体的な実践活動の内容として、県民運動、野菜一皿運動等記載されているので、これを実践できるようにしていきたいと考えている。我々栄養士会だけでは、裾野が広がらないので、食生活改善推進員、職場、地域の方々にも協力していただいて、活動していきたい。
- ・ 被災地で、高血圧、糖尿病といった方々が増えているという話をよく聞く。食生活も重要であるが、運動という部分でもやはり仮設住宅では運動する機会が少ないというのも原因であると思う。男性で単身という方もおり、弁当を買ってきて食べる方もいると思う。仮設住宅から復興住宅に移れば、運動の機会も増え、改善に向かっていくのではないかと感じている。

(小笠原委員)：岩手日報社

- ・ いろいろな目標や取組の方向性が書かれているが、具体的にどうすれば良いのかわからないというのが率直な感想である。
- ・ 脳卒中死亡率全国ワースト1からの脱却ということであるが、香川県等死亡率の低い県では具体的に何かやっているか、どのようなことをやっているのかというような情報もあると良いのではないかと。それを具体的な行動指針として進めいくということで、目標に近づいていけるのではないかと思う。
- ・ がんであれば早期発見・早期治療が非常に効果があると思うが、受診率が高いところではどのような形で受診率を高めているのか、岩手においては何が足りないのかというあたりを具体的に事例を示していくことによって、具体的なアクションに結びついていくのではないかと思う。できるだけそのような情報をこの計画自体ではなく、何か違う形でまとめて情報を示していただければ良いと思う。

(宮手委員代理)：岩手県薬剤師会

- ・ 岩手県薬剤師会では、禁煙の講師等、禁煙活動を行っており、小学校・中学校にも薬剤師が赴いて、若年者の飲酒・喫煙の防止の講演等も行っている。
- ・ 自殺対策についても、ゲートキーパーとしての役割も担っている。
- ・ 特に禁煙の活動については、盛岡市保健所を中心として、岩手大学公衆衛生学講座ともタイアップして、禁煙サポート薬局を設けて、ガム・パッチの禁煙補助剤を配布し、フォローしながら禁煙支援を行っている。そのような支援により半年以上禁煙できた方が、7～8割、毎年50～60名おり、これを何とか全県に広められないものか県とも相談している。禁煙補助剤を配るかどうかは別として、禁煙の相談窓口、一番身近な健康相談所として薬局をぜひ活用していただきたい。

(佐々木委員)：岩手県老人クラブ連合会

- ・ 老人クラブでは、60歳代の会員が少なく、70歳代後半から80歳代の方が多く、会員数がどんどん減っている。
- ・ 基本的には自主性、地域性、協働性という柱で活動しており、健康づくりとしては、シニアスポーツの講習等を行っている。また寝たきりゼロ作戦として、一人暮らし世帯への訪問等も行っている。
- ・ またウォーキング、軽体操等実施している。県では毎年各市町村から健康推進委員を集めて、いろいろなことを学ぶ機会をつくっている。いきいき体操も行っているが、まだまだ市町村に普及してはいないが、今後岩手県でも推進していきたい。
- ・ 歩くこと、体を動かすということを、老人クラブとしても取り組んでいきたい。

(佐藤委員)：岩手県歯科医師会

- ・ 歯科についてもかつては全国でワースト3を争っていた時期があったが、今はもう全国値以上になってきている。脳卒中死亡率ワースト1という順位だけに注目していくと、政策的にも難しいところがあるのではという気がする。80年代の初頭であれば死因のトップが脳卒中であったが、今は3位になっており、全国でも減少し、岩手でも減少している中で、順位だけにこだわらず、どういう傾向で減っているのかというようなことも併せて県民に知らせることが一番大事であると思う。目標においても単なる順位にこだわることなく、県としてどのように活動しているのか示していただきたいと思う。
- ・ 岩手県のプランの特徴は、被災のこともしっかり書かれているところなので、震災の部分の関係する計画として「東日本大震災復興計画」の記載であるが、「イー歯トープ 8020 プラン」や「岩手県地域防災計画」も記載していただけるとありがたい。

(高橋委員)：岩手県食品衛生協会

- ・ 栄養成分表示について、保健所の栄養士が中心に一生懸命取り組んでいるが、岩手県生活衛生営業指導センターの協力も得て、各保健所の食品担当とも一緒に推進していくと、より目標に近づくことができるのではないかと思う。協会としても機会があればPRをしていきたいと考えている。

(千葉委員)：岩手県看護協会

- ・ 禁煙について、日本看護協会では、全国的な規模で住民の健康を支援する立場にある看護職がどれくらい喫煙率なのかという調査を行う予定である。
- ・ 岩手県看護協会としては、大学も含めて看護学校では、喫煙状況、喫煙対策がどのようになっているかということも現在調査しているところである。
- ・ 妊婦に対する禁煙に関する指導は、助産師の妊婦に関わる際のマニュアルにも記載されており、きちんと指導がなされている。
- ・ 飲酒に関しては、喫煙の方に力が入り、妊婦に対する指導がやや疎かになっている面もあるので、今後検討していくこととしている。

(松田委員)：岩手産業保健推進センター

- ・ 職域の全ての保健衛生に関わる部分で取り組ませていただいております、健康いわて 21 プランの全ての領域にも関わってくると考えている。
- ・ 厚生労働省から委託を受けて、メンタルヘルス対策支援センターという仕事もしている。
- ・ P94 の③に記載されている厚生労働省の「労働者健康状況調査」(平成 19 年)について、平成 24 年版が 10 月に出ているので、平成 24 年のデータに修正した方がよいのではないか。平成 24 年のメンタルヘルスに関する取組を実施している職場の割合は、47.2%。となっている。
- ・ P105③の「がん検診受診率向上プロジェクト協定」について、どのようなものが教えていただきたい。また、平成 25 年現在 3 社で、目標では、平成 34 年 30 社としているが、その考え方についても教えていただきたい。

(佐藤委員代理)：岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会

- ・ 食生活改善推進員は、「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンとして、健康づくりのサポーターの役割を担うボランティア的な組織である。
- ・ 健康のためには、小さい時からの食生活が大切ということで、赤ちゃんからお年寄りまでを対象に、行政の方の御指導を受けながら地域の方に食生活の面で健康推進活動を行っている。

- ・ 現在、保育所や学校、高校、幼稚園でも、私たちの活動が認知されるようになり、学校等で調理実習等を行っている。
- ・ 生活習慣病予防を目標として活動しているが、今年度特に脳卒中ワースト1を脱却するために、長野県の取組を勉強しながら、県民の皆様に減塩活動を進めていききたいと思っている。各家庭のみそ汁の濃度測定や野菜一皿運動ということも計画している。
- ・ 今後、行政の方や長野県の食生活改善推進員の方々の指導を受けながら取り組んでいきたいと考えているが、食生活改善推進員だけの力ではできないので、保健推進員や栄養士の方々と一緒になって健康づくりを進めていききたいと思っている。

(渡辺委員)

- ・ 岩手県ウォーキング協会の理事をやっていることから、健康いわて 21 プランと関係があるのではないかとことから、公募委員としてこの席に座らせていただいている。
- ・ 今回は第1次に続く第2次計画ということで、ポイントとして健康寿命の延伸、脳卒中対策に絞ったということであるが、岩手県として、第1次の反省からもっと項目を絞りたいのではないかと。項目が多ければ多いほど、データを取るのに時間・パワーを要してしまうという反省もあるが、その辺は大丈夫なのかという思いがある。
- ・ 評価について、県内の市町村別にどのような状況になっているのか、今後一般的に公表する予定はないのか、重点的に改善しなければならない自治体があるのではないかと思い、第2次の中では、中間評価等でそのような資料を示していただければ、もう少し前に進めるのではないかと。
- ・ ウォーキング協会では、全市町村でのウォーキング大会の実施に向け取り組んできたが、自治体によってはなかなか取り合ってもらえないところもあり、2年間必死に取り組み、33市町村のうち28市町村のみでしか実施できなかった。推進体制として、市町村の窓口は教育関係、健康づくり関係等どこを想定して推進しようと考えているのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 今回参加していただいている皆様は、まさに今回の第2次健康いわて 21 プランの健康サポーターを担っていただける団体と考えているので、今後も御協力をよろしくお願ひしたい。
- ・ 目標・方向性について、具体的にどうすればいいのか、具体的な先進的な取組の紹介等も必要ではないかという点について、例えば脳卒中対策については、今後県民会議を立ち上げることとしており、その中でも先進的な事例を皆様方にお示し、岩手県ではどのように行っていけばいいのか具体的な施策を進めていきたい。
- ・ 禁煙に関する薬剤師会の協力について、P83の喫煙領域の実現に向けた取組①の中に記載のとおり、地域住民の身近な存在である薬局が禁煙補助剤などによる禁煙支援を行う「禁煙サポート」を推進していきたいと考えている。盛岡市で実施している禁煙支援を全県に広げていきたいと考えているので、御協力をお願ひしたい。
- ・ 脳卒中ワースト1の順位だけにとらわれない取組をという御意見について、脳卒中ワースト1というのは象徴的な目標として掲げている。脳卒中死亡率全国ワースト1からの脱却に向けた取組ということで、減塩だけでなく、喫煙や高血圧、メタボの予防等も必要になってくることから、生活習慣病予防を広くやっていくことができるのではないかと考えており、県内広く展開していきたいと思っている。

- ・ 栄養成分表示店の拡大という点で、岩手県生活衛生営業指導センター、保健所食品担当等、非常に強力なお力をいただけているので、ぜひとも御協力をよろしくお願ひしたい。
- ・ がん検診受診率向上プロジェクトについて、現在、県と3つの企業とで協定を結んでいる。企業として、会社の方で社会貢献のひとつとして、がん検診受診率向上に向け共同で取り組もうということ
と
で協定を結んでいる。具体的に現在実施しているのは、共通のリーフレットを作成し、市町村で活用していただくことによって、がん検診受診率向上を図っていこうというものである。今後、どんどん拡大していきたいと考えている。
- ・ 市町村別の評価について、各保健医療圏毎の地域の課題に基づき、それに対してどう取り組んでいくかという圏域別計画を策定しているところであり、策定後皆様にお示しする。
- ・ ウォーキング大会等の市町村の窓口について、各市町村の健康づくり担当課が中心となり、市町村の健康増進計画を策定しており、身体活動の部分も触れられていると思うので、健康づくり担当課を窓口とするのがよいと考える。

(小原会長)

- ・ 例えば、資料編として最後のあたりに、各保健所圏域の簡単な代表的な圏域のデータが出ると、より県民が興味を持つのではないかと。

3 報告

イー歯トープ8020プラン（岩手県口腔の健康づくり推進計画）中間案について 資料2及び中間案により事務局から説明

(佐藤委員)：岩手県歯科医師会（口腔保健専門委員会）

- ・ 委員の意見の中でフッ化物応用に関して、養護教諭部会からこの記載についての異論があった。学術専門委員の中から、フッ化物応用の予防的効果は非常に高く、なおかつ、むし歯の減少が明らかなのには有効性も高く、過去10年以上の中で健康面での問題がなかったことから、推進していきたいという意見があった。座長としては、一旦5年前にもこの計画が出ており、養護教諭部会の意見については、今回の中間案ではさらに関係機関の連携に配慮することで、中間案を持って示したいと思っている。
- ・ 歯科の問題、特にむし歯の問題は間違いなく市町村格差が大きい。3歳児が市町村間で約2.5倍という結果が出ているが、1歳6ヶ月でみると約8倍、12歳児は特殊な事情があるが、20倍以上の格差となっている。
- ・ 各地区のきめ細かな活動は当然必要であるが、今回出された中間案については、母子歯科保健、学校歯科保健、産業歯科保健を含めた成人歯科保健、高齢者歯科保健、障がい者・要介護者と切れ間ない形が示されたと思うし、それを踏まえて震災の部分も加えられるということで、健康いわて21プラン第2次とも整合性がとられていると思っている。
- ・ 本日の推進協議会の委員の皆様には、これまでも歯科保健の推進に御尽力いただいているので、今後も御協力をお願いしたい。

(小笠原委員)：岩手日報社

- ・ 以前、会議の中で学校の先生から市町村格差の問題はもちろんあるが、個人間の格差、むし歯のある子はたくさんあり、ない子はないという差も大きいということで、福祉的な面からも何か施策が必要ではないかということを知ったことがある。結局、家庭の収入の違いというものがそのようなことに結びついている面はないものかどうか教えていただきたい。

⇒ (佐藤委員)：岩手県医師会

- ・ 個人間の問題、特に乳幼児期に明確になってきているものが、小学校・中学校・高校でも引き続いて個人間の格差が生まれていくということになっている。御指摘の収入の問題については、健康日本21（第2次）の検討の会議の中でも、経済格差と併せて議論する中で、非常に微妙な問題も含んでおり、それをどう表現すべきか、どう比較するか、なかなか一致した意見が出なかった。様々な福祉施策、または学校保健の中で子どもたちに対する指導はもちろん進めていきたいと思っているが、実際3年間むし歯の指導をしなかったというケースも見られる。そこに家庭の問題があるのかという点とたぶん可能性としてはあったのかもしれないが、今明確に言える資料は持っていない。

4 その他

今後のスケジュールについて

資料3により事務局から説明

(根子保健福祉部長)

- ・ 地域のつながりを大事にする、あるいは職域での労災防止の関係、小児期からの関わり、高齢者の問題等いろいろなご意見をいただいたと思う。
- ・ その中で脳卒中の問題、死亡率が全国でワースト1ということでこれについて力を入れるということでお出しした訳であるが、佐藤委員からは順位にばかりこだわらなくていいのではないかと話もあった。確かに順位はともかくとして、脳卒中の死亡率が下がることが大切である。
- ・ 減塩や野菜摂取、運動等、それぞれ脳卒中予防には必要だということで、これまでも取り組んできており、決して目新しいことではないが、脳卒中死亡率がワースト1だということで、県民運動的に取り組むということが大事であり、いろいろな取組を相対的に進めていきたいと思っている。
- ・ 口腔の健康づくり推進条例の関係については、今回報告したとおりであるが、がんに関しても現在、県議会で議員発議の形で検討を進めており、年度内のがんの条例をつくる方向で検討しているところである。
- ・ 健康いわて21プラン（第2次）については、今後パブコメ、説明会等を経て最終案に向け取り組んでいきたいと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。